

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ウキウキはなさく伊丹荻野西教室			公表日		令和6年12月6日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100		学習スペース、活動スペース共に十分な広さを確保しています。	今後もご利用様が怪我無く快適に活動できるよう配慮してまいります。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100		利用者さんの人数や特性を踏まえて、可能な限りの調整を行い、対応している。	利用者様の特性や介助量を考慮すると難しい時がある。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	80	20	マットの色で、静と動の活動場所が分かるようになっている。職員の配置場所により、危険が生じないように努めている。	キッチン、トイレ、手洗いの場所が死角になりやすく、注意が必要。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	60	40	研修にて掃除方法等を学び、日々取り組んでいる。 活動内容に合わせて、環境設定を行っている。	トレーニンググッズや玩具を片づける棚（押し入れ）が使いづらく、散らかりやすい。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100		活動内容や利用者様の状況により使用する空間を分け、落ち着ける環境づくりに配慮しております。			
学	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100		今後も毎日のミーティングや月に2度の研修にて職員同士で目標を共有し日々改善に努めてまいります。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100		事業所内で機会を設け、保護者様の意向を真摯に受け止め、業務改善を行っております。			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ウキウキはなさく伊丹荻野西教室		公表日		令和6年12月6日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
業務改善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100		毎日の職員ミーティングや課題検討などで随時意見交換を行っています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100		第三者による評価を基に、業務改善に努めています。	今後も外部の方からの評価を参考にしながらサービスの向上に努めてまいります。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100		毎月の研修にて職員全員のスキルアップを行っている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100		利用者様や保護者様の意向や状況を基に支援内容を決定し、適切に作成、公表しています。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成しているか。	100		お子様と保護者様のニーズを把握し、様々な職員からの意見を取り入れ個別支援計画を作成しています。	今後も様々なご家庭に寄り添えるよう連絡体制を工夫し、保護者様のニーズにお応え出来る環境と信頼関係を築けるよう努めてまいります。
	13	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100		日々のミーティングや研修にて、利用者様の様子や特性を理解し、利用者様に添った支援ができるよう努めている。	
	14	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100		定期的にあセスメントを行いお子様の状況に合わせた個別課題と集団活動時の課題の両方の視点から個別支援計画を作成し、それを職員間で共有しています。	今後も利用者様の特性や成長に合わせた支援ができるよう、強みを生かした計画を立て、日々の活動に反映出来るよう努めてまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ウキウキはなさく伊丹荻野西教室				公表日	令和6年12月6日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100		フォーマルなアセスメント結果をもとに、日々の行動を観察し専門性を持った職員とアセスメントを実施し一人一人にあったプログラムを作成しています。		
	16	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100		作成している個別支援計画書に支援に必要な項目の設定と具体的な支援内容を記載しています。	今後も保護者様や相談支援員の皆様と連携を行い、様々な意見を参考により良い支援を目指してまいります。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100		様々なスタッフの意見を取り入れ、来所する利用者様の発達段階や特性に見合った活動プログラムの立案をしています。	今後も職員同士コミュニケーションをとり、様々な意見を取り入れてまいります。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	80	20	利用者様の発達やレベルに合わせた支援提供の準備を行っている。	ミーティングの充実化。 当日の活動内容に合わせた準備。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	100		定期的にアセスメントを行いお子様の状況に合わせた個別課題と集団活動時の課題の両方の視点から個別支援計画を作成し、それを職員間で共有しています。	今後も利用者様の特性や成長に合わせた支援ができるよう、強みを生かした計画を立て、日々の活動に反映出来るよう努めてまいります。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100		支援開始前に毎日ミーティングを行っています。	今後も継続して当日の役割分担を明確にし、支援の向上を目指してまいります。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ウキウキはなさく伊丹荻野西教室			公表日	令和6年12月6日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100		支援終了後、毎日情報共有し、当日お休みの職員にはミーティングノートを活用し周	今後もより一層改善していけるよう努めてまいります。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100		個別支援計画に基づき支援記録を記入しています。支援計画の見直しや作成に活用しています。	今後もより一層改善していけるよう努めてまいります。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100		定期的にモニタリングを実施し、保護者様のニーズ・支援記録・中間評価なども参考に計画の見直しをしています。		
24	【放デイのみ】 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせながら支援を行っているか。	100		ガイドライン内容に則り、日々活動内容を組み合わせながら支援を行っております。		
25	【放デイのみ】 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100		日々、利用者様が自己選択出来る環境づくりを大事に支援しております。	今後もより一層改善していけるよう努めてまいります。	
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100		お子様の状況に精通した担当者複数名で参画させていただいています。	今後も相談支援事業所との関係を深め、さらに情報共有を行えるよう努めてまいります。	
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100		必要に応じて情報共有を行っています。	今後も必要な場合は行ってまいります。	
28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	100		必要に応じて情報共有を行っています。	今後も必要な場合は行ってまいります。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ウキウキはなさく伊丹荻野西教室		公表日		令和6年12月6日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
関係機関や保護者との連携	29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	60	40	課外活動にて地域交流を行っている。	今後も継続して様々な機会を設けていけるよう検討してまいります。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	100		日頃から送迎時にご家庭での様子を伺い、教室での活動の様子をお伝えし、共通理解の元	
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	40	60	専門職のアドバイスのもと、随時行っております。	現在個々のご相談には応じていただいておりますが、保護者様向けの支援プログラムには至っていないため、今後検討してまいります。
	32	【 児発事業所・児発センターのみ 】併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				
	33	【 児発事業所・児発センターのみ 】就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				
	34	【 児発センターのみ 】地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	35	【 児発センターのみ 】質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ウキウキはなさく伊丹荻野西教室			公表日	令和6年12月6日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
36	【児発センターのみ】 (自立支援)協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
37	【放デイのみ】 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100		随時、情報共有を行っています。		
38	【放デイのみ】 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	80	20	必要に応じて情報共有を行っています。	今後もより一層改善していけるよう努めてまいります。	
39	【放デイのみ】 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100		必要に応じて情報共有を行っています。		
40	【放デイのみ】 (自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	100			現在未参加のため、これから機会を設けたいと思っております。	
41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100		契約時に書面・口頭にて説明しています。	今後も契約時の説明を継続するとともに適宜支援内容等お伝えしてまいります。	
42	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100		こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、日頃から定期的なアセスメントを行い		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ウキウキはなさく伊丹荻野西教室				公表日	令和6年12月6日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
保護者への説明等	43	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100		利用者様や保護者様の意向を基に支援計画を作成し、同意を得る際には丁寧に説明を行っています。		
	44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100		随時、子育てや障がいについてのお悩みやご相談に応じています。	今後も継続して適宜相談に応じてまいります。半年に一度面談を予定しています。	
	45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	80	20	保護者様のニーズにより、交流等の機会を設けるようにしている。	以前は保護者同士の交流会など開催できていたが、コロナより機会が減っているので、希望があれば検討していきます。	
	46	子どもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100		相談や苦情があった場合、迅速かつ適切に対応させていただいています。	契約時の書面にて苦情・相談窓口の記載をしています。今後も継続して苦情・相談があった際はすぐに対応してまいります。	
	47	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100		新聞の発行を定期的に行い、活動内容や行事予定を発信している。		
	48	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100		全スタッフ入社時に秘密保持について契約書を交わし、徹底しています。	今後も継続して個人情報の保護を徹底してまいります。	
	49	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100		適宜適切な方法で対応をさせていただいております。	今後も継続して、適宜適切な方法で対応してまいります。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ウキウキはなさく伊丹荻野西教室				公表日	令和6年12月6日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
50	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	20	80	計画中です。	地域住民の方が関心を持てるような行事を計画してまいります。	
51	<u>【放デイのみ】</u> 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100		専門職のアドバイスのもと、随時行っております。	今後も継続して、適宜適切な方法で対応をしてまいります。	
52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100		各種マニュアル作成し、ファイリングし閲覧できるようにしています。保護者様へは契約時に書面でお渡ししています。	今後も継続して行っております。	
53	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100		業務継続計画を策定し、年間で各種訓練を予定して実施しています。	毎月避難訓練の日を設けて様々な訓練を実施し、非常災害の発生に備えております。非常災害時対応について保護者様へは個別支援計画書と発行文書にてお知らせさせていただいております。	
54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100		契約時に基本情報を保護者様に記入していただき、利用者様の状況を確認しております。		
55	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100		保護者様からの情報(医師の指示も含む)に沿った対応、且つ全スタッフに周知しております。	今後も継続して行っております。	
56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100		毎月安全計画に基づいた研修を行っております。また避難訓練の日を設けて様々な訓練を実施し、非常災害の発生に備えております。		

非常時等の対応

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ウキウキはなさく伊丹荻野西教室		公表日		令和6年12月6日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
対応	57	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100		非常災害時対応について保護者様へは個別支援計画書と発行文書にてお知らせさせていただいております。	
	58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100		全スタッフが閲覧できるよう、ヒヤリハット事例集をファイリングしています。日々のミーティングにて事例の共有を行っています。	今後も継続してご利用様の安全管理を徹底してまいります。
	59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100		虐待防止の研修を半年に一度実施しています。外部研修へも積極的に受講しています。	今後も継続して行ってまいります。
	60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100		「身体拘束を行わない」という方針のもと、専門性の向上に努めています。現在、該当する児童はいません。	今後も継続して「身体拘束を行わない」という方針のもと、専門性の向上に努めてまいります。